

【継続】水田農業低コスト・高付加価値化基盤整備事業費

概要

- 生産コストの大幅な削減に資する大区画化と併せて、担い手への農地集積・集約化や高収益作物への転換を後押し

予算額(当初): 4,324,005千円

事業期間: 昭和38年度～

背景/課題

【背景】

- 農業者の減少、高齢化、後継者不足の進行

- 主食用米の需要減少、平成30年からの米政策の転換(行政による生産数量目標の配分廃止)

【課題】

- 水田農業の更なる低コスト化を実現するため、農地の集積・集約化やほ場の大区画化、地下かんがい施設の導入、用排水路の管路化等が必要

- 主食用米への依存から収益性の高い作物への転換
 - ・ 園芸作物など高収益作物の生産の振興に向け、排水改良等の基盤整備が必要

事業内容

○ 事業内容

- ① 区画整理、② 暗渠排水、③ 農業用排水施設、④ 客土、⑤ 農道

- ・ 大区画ほ場
- ・ 用排水路管路化
- ・ 用水管理の自動化
- ・ 地下かんがい

により農作業を省力化

○ 事業主体 県

○ 負担区分

国50(55)%, 県27.5%, 地元22.5(17.5)%
※()内は中山間地域等

○ 令和2年度実施地区 57地区

- ・ 継続地区 45地区
- ・ 新規地区 12地区

事業効果

○ 担い手への農地の集積・集約

- ・ 事業実施地区内における担い手の経営等面積が約1.7倍に増加

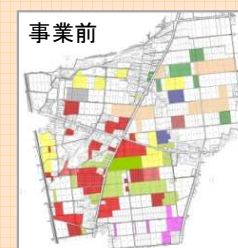
(H17~H31採択地区の平均値)



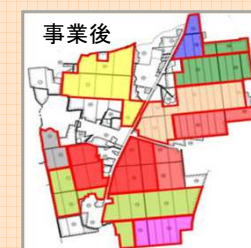
『担い手』

- 認定農業者
- 特定農業団体等
- 人・農地プランにおいて、地域の中心となる経営体

- ・ 農地を面的な繋がりをもって集積(集約)



農地の集約



○ 水田への園芸作物の導入促進

- ・ 生産基盤の整備により園芸作物の作付が増加した例

地区	作物	面積
赤松通り地区(大蔵村)	トマト	0.3ha → 3.5ha
	ブルーベリー	0ha → 1.4ha
西郷名取地区(村山市)	アスパラ	0ha → 0.8ha

(H30作付実績)

事業目標

- ・ 担い手の米の生産コスト H30(現状)16億円/年 ⇒ R2(目標)13億円/年
- ・ 大区画ほ場整備面積 H30(現状)3,560ha ⇒ R2(目標)4,000ha

問い合わせ先

- 担当課: 農村整備課 農地整備担当
- 電話: 023-630-2502